

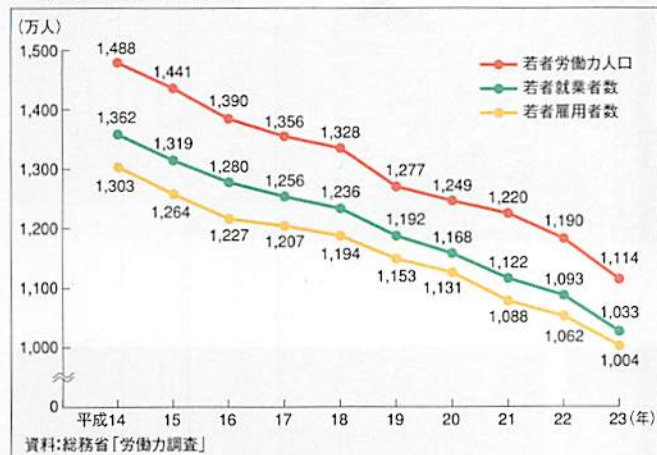
特集

会員企業と共に
次代を担う人材を育成する!

若年層 教育支援の 取り組み

現在、少子・高齢化の進行や団塊の世代の退職などに伴い、労働力人口の減少が加速している。そのような中、意欲と能力のある若い人材の就業促進による幅広い産業人材の確保、質の高い産業人材の育成が求められている。本稿では、当所が行う「職場体験」を中心とした若者向け教育支援事業について紹介する。

若者労働力人口等の推移



総務省の労働力調査では、若者の労働力人口の減少について指摘している。その背景には、雇用システムの変化や、求職と求人希望との不適合の拡大などの「就職・就業環境の激変」や、勤労観・職業観の未熟さ、社会の一員としての意識の希薄さなどの「若者自身の資質の低下」など、「学校」から「社会」への移行をめぐる課題が問題となっている。

求められる若年層の教育支援

【キャリア教育と職場体験】

こうした中、政府では、文部科学省を中心に、望ましい勤労観や職業観の育成を図るため、社会体験などの充実による「キャリア教育」の推進に
取り組み、小・中・高を通じた組織的・系統的な取り組みを目指している。

特に、近年では、生徒が企業に向き、実際的な知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶこと、働くことの意義を理解させる「職場体験」の充実が求められている。

職場体験をはじめとした若者人材の育成事業の実施にあたっては、学校などの教育関係者と地域・社会や産業界の関係者が連携・協働し、お互いにそれぞれの役割を認識しながら一体となった取り組みを進めることが重要だ。

小学校から高等学校への
キャリア教育のイメージ

小学校 職場見学等

中学校 職場体験等

高等学校 インターンシップ等

個々のスキルアップを
サポート

当所では、これまで簿記検定や珠算検定をはじめとした各種検定事業を実施するなど、ビジネス実務に直結する実践的な知識やスキルの若年層への普及を通じて、ビジネス人材の育成に取り組んでいる。

さらに、全国の商工会議所で唯一「付属専門学校(CA)」を運営している。CAでは、地域経済の発展に寄与する有能な人材を輩出するため、「優れた職業教育」と地域社会に貢献できる「良き社会人教育」を教育理念としている。



当所が運営する札幌商工会議所付属専門学校(CA)

学生の基礎力アップに取り組むとともに、専門知識・技術、豊かな人間性を身に付けさせ、当所の約二万社にのぼる企業ネットワークを最大限活用した就職支援により、就職率九十一%を超える実績をあげ(平成二十四年三月三十一日現在)多くの人材を輩出してきた。

商工会議所の企業
ネットワークを活用した
職場体験を展開

一方、近年では、「キャリア教育」支援として、小学校から高校まで、若年層でも幅広い年代を対象とした教育支援が求められており、当所では会員企業とともに、各年代層に応じたさまざまな教育支援を展開している。

札幌インターンシップ
推進協議会

教育現場と産業界が連携した取り組みとしては、市内の高校・大学と当所会員企業などが連携した「札幌インターンシップ推進協議会」を平成十六年に設立し、キャリア教育の支援を行っている。

これまで、小学生～大学生を対象とした事業実績があり、特に高校生・大学生を対象としたインターンシップの「受け入れ企業募集」「マッチングサポート」は毎年行っている。

これまでの八年間で約千名の学生が当所会員企業約三百社で就業体験を行っており、学生への就業体験と共に、企業には短期就労による人材見極め、という貴重な機会を提供してきた。

学生が就職前に業務内容を把握し、自己適性の見極めを行う機会を得ることは、就職時の企業と学生のミスマッチ解消にもつながる。

企業側にも、インターンシップ制度の活用は「企業イメージの向上」「社

内の活性化」「社員の育成・成長」など、さまざまな効果が期待できる。

当所が主催・参画したこれまでの教育支援事業

実施事業名	対象
さっぽろ・ベンチャーキッズ (平成18・19年実施)	小学生
こどものまちミニさっぽろ (平成20～23年実施)	小学生
建設現場施設見学会 (平成17年実施)	中学生
学生チャレンジジョブ 体験事業(平成16年実施)	高校生
さっぽろ・ジョブ・フォーラム (平成16・17年実施)	高校生
高校生ひらめき甲子園 (平成18年実施)	高校生
職場見学	高校生
就業体験	高校生・大学生
経営者・起業家講話	高校生・大学生
学生による企業経営共同研究および 提案事業(平成17年実施)	大学生



店頭での職場体験に取り組むインターンシップ生

「ミニさつぽろ」の展開

また、小学生を対象とした職業体験の支援事業としては、毎年開催されている職業体験イベント「ミニさつぽろ」に当所の関連部会が地元業界団体と連携し平成二十年から企画している。

こどものまち「ミニさつぽろ」は仮想の街で職業体験や消費体験を通して子どもたちに働くことの楽しさや苦勞を体験してもらい、世の中の仕組みを学んでもらうことを目的に平成十八年から開催されている。

昨年は二日間の開催で、約三千五百名の小学生が参加し、大変な賑わいをみせた。



建設ゾーンで職業体験に励む小学生

当所では、総合建設関連部会が、建設に関わる業界団体と連携し、「左官」「庭づくり」「建築設計」「建設機械オペレーター」「インテリアデザイン」などを体験できる「建設ゾーン」を運営したほか、生活関連商業部会の花き分科会では、札幌花き地方卸売市場と連携し、卸業者、中卸業者、小売業者などと「ミニフラワーショップ」を展開した。

「ミニさつぽろ」は今年も九月二十九日(土)、三十日(日)に開催が予定されており、当所としては例年同様「建設ゾーン」と「ミニフラワーショップ」のほか、新たに運輸・自動車部会による「運送物流体験」を展開する予定となっている。



ミニフラワーショップで職業体験に励む小学生

小学生が観光施設の店長として 観光客をおもてなし

当所では、札幌の歴史や文化、自然環境や観光名所などを総合的に学ぶことで、札幌の魅力について紹介できる人材の育成を目指し「札幌シティガイド検定」を実施している。

本検定の合格者は、観光客をもてなす観光ボランティアガイドとして、本市のホスピタリティ向上に貢献している。

そのような中、これまで当所が育成してきた観光ボランティアガイドや観光施設担当者と協力し、小学生の職場体験を支援する「こども店長事業」を新たに立ち上げた。

本事業は、夏休み期間を「夏休みおもてなし月間」とし、市内の観光施設において子どもが店長を務め、観光ボランティアガイドや施設担当者が案内をサポートするというものだ。

昨夏、赤レンガ庁舎において、小学生と観光ボランティアガイドがペアとなり、実際に観光客に対し、施設の説明や観光案内を行う取り組みを行った。その際、観光客から「また子どもガイドに案内してもらいたい」などの強い要望があったほか、参加児童・保護者からも「お客さんに喜んでもらえ



道庁赤レンガで観光客を案内する小学生

てうれしかった」「子どもの参加を通して札幌のことを知った」という意見が多く寄せられた。

そのような意見を踏まえ、今年度は、より多くの市内観光施設で実施できるよう、参加を呼びかけたところ、新たにさつぽろ羊ヶ丘展望台、もいわ山ロープウェイ、大倉山・札幌ウィンタースポーツミュージアム、さつぽろテレビ塔に賛同いただき、各施設においてこども店長を配置し観光客の案内を行うこととなった。

こども店長活動施設と体験内容業

施設名	体験内容
道庁赤レンガ庁舎	「観光ボランティアガイド体験」 大人スタッフと児童がペアとなって、観光客に赤レンガ庁舎の説明
さっぽろ羊ヶ丘展望台	「こどもクラーク博士」 「羊ヶ丘ウルトラマン・ワールド」チケットブース手伝い、路線バスの受入、施設内でのパンフレット配布
もいわ山ロープウェイ	「ロープウェイ業務」 ロープウェイ乗車券の改札、ロープウェイ内の一部案内(ガイド)、中腹駅での案内
大倉山・札幌ウィンタースポーツミュージアム	「お客様の案内・誘導」 大倉山総合案内所付近で実施 「疑似体験機器の使用案内」 札幌ウィンタースポーツミュージアムでの館内業務
さっぽろテレビ塔	「観光ボランティア・売店・チケット係」 観光ボランティアとしてさっぽろテレビ塔の案内、売店で接客&POSレジ体験、チケットもぎり体験
	「エレベーターガール体験」 エレベーターガールとして、エレベーター乗車中の景色の案内、チケットもぎり体験

その中で、大倉山・札幌ウィンタースポーツミュージアムでは、今回、七月三十一日と八月九日にこども店長が観光客の受け入れを行った。

当日は三名の小学生が、お客様の案内・誘導と施設内の疑似体験機器の使用について案内した。

参加した小学生からは「疲れたけど楽しかった」「機材操作など普段体験できないことができてうれしかった」などの感想が聞けた。また、案内するなかで、「施設についてもっと知りたくなった」など、非常に前向きな意見も見受けられた。

大倉山ジャンプ競技場などの関連



大倉山80年のあゆみを紹介している特別展示

施設の管理運営を行う(株)札幌振興公社の工藤正士課長は、「こども店長には短い時間ではあるが今回の体験



体験機材の操作説明をすることも店長

を通じて、観光施設である大倉山の歴史も学んで欲しい」と語る。

今年で八十周年を迎えた大倉山は特別展示も行っており、札幌オリンピックでのスキージャンプ金銀銅メダル独占の歴史なども紹介している。

「子どもたちが、改めて施設への関心を高めることで、将来観光施設の仕事をしてみたいと思ってもらえれば、震災の影響を受けている北海道の観光業も、今後もっと盛り上がるはず」と語る。

将来的には、市民レベルでの観光の受入態勢を作り上げていくためにも今回の事業に大きな期待を寄せている。

そのような中で、地域の行政をはじめ、企業など幅広いネットワークを持つ「商工会議所」には、教育の場と企業のつなぎ役としての期待も大きい。

当所としても、関係諸機関と情報を共有しながら、学生を中心とした幅広い年齢層に応じた、教科書だけでは学ぶことができない実社会に結びついた教育支援に引き続き取り組むことで、今後の札幌経済を牽引する次世代人材の輩出を積極的に支援していく。

商工会議所が地域の教育現場と職場との橋渡し役を担う!

キャリア教育にかかわる事業の一体的かつ効果的な実施を図るためには、参画事業者間の連携強化が重要だ。

その際、学校、地域、企業、関係機関などがパートナーシップを発揮して、互いにそれぞれの役割を自覚し、一体となって将来を見据えた取り組みを進めることが、地域の自立や活性化の観点からも、今後ますます求められる。